

二酸化炭素地球温暖化説について

佐竹 幸一

私は以前から、二酸化炭素地球温暖化説に対して、疑問を持った懐疑論の立場に立っています。以前、人間学研究所の例会で、人間学研究所の会員にもなっていただいた気象学者の故根本順吉氏の「地球の気温は様々な要素で、成り立ったもので、断じて、二酸化炭素のみが、大きな影響与えるという説は誤りである」、というお話を聞いていました。気温の変化は様々な要因が絡まって生じるものです。いずれにしても一番大きな影響を与えるものは太陽だとおっしゃっていました。

21世紀に入ってから、気温上昇の停滞＝ハイエイタスや（理論どおりに気温が上がらないので停滞という）、南極の氷の増大（南極も北極も氷が減少していくはずだった）、太陽の磁極の二極化と太陽の活動の低下により気温が今後下がる可能性、などさまざまな、地球温暖化二酸化炭素説の破たんが示されているにもかかわらず、温暖化論者は、懐疑論者を攻撃、弾圧しています。

気温が以前より高いなという感じから、温暖化しているんじゃないかと感じる方もあるかもしれませんが、東京などの大都会はヒートアイランド現象の影響が大きいのです。又、気温測定場所にも左右されます。東京都の気温は2014年10月3日発表以後、気象庁から北の丸公園に変わりました。そのことにより最低気温が平均1.4℃も低くなるのです。炭酸ガスの排出量を減らして、気温を2℃上昇までにするといいですが、測定場所を変えるだけで1.4℃も低くなってしまいます。

今まで人為的な二酸化炭素増大にかかわらず、気温の高い時期はありました。例えば縄文期の温暖化により、大陸と陸続きだった日本が海水面の上昇で分離し、関東地方の奥の方まで海進しました。又、今までの世界の歴史を見ても、温暖期よりも寒冷期に大きな被害が生じました。ネアンデルタール人などは、最終氷期（ウルム）後に絶滅し、7万5000年前の現生人類もインドネシア、トバ火山の爆発による寒冷化と乾燥化（ウルム氷河期へ続く）により、絶滅寸前までに追い込まれました。人間は温暖期よりも寒冷期に苦しめられてきたのです。ところが、気温の停滞（ハイエイタス）も縄文期の温暖

期などもなかったといっている人々があります。

註：詳しくは 2016 年 1 月 15 日の「こういちの人間学ブログ」の「地球温暖化に歯止め？
二酸化炭素地球温暖化説では説明不能」をお読みください。そして、海外での学説
を紹介していただいた「とら猫イチ」氏のコメントもぜひお読みください。